

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年8月19日（火）

2 確認箇所

- ・多核種処理水希釈放出設備測定・確認用設備（K4タンクエリア）及び移送設備（多核種移送設備建屋）並びに希釈・放出設備（5・6号機敷地護岸ヤード）（図1）
- ・ブルータンクエリアA（大型機器点検建屋北側）（図1）

3 確認項目

- （1）多核種除去設備等処理水の放出状況
- （2）横置き型ブルータンクの保管状況

4 確認結果の概要

（1）多核種除去設備等処理水の放出状況

令和7年8月7日から本年度3回目（累計14回目）となる多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の放出が行われていることから、その放出状況を確認した。（前回確認：令和7年8月7日）

放出対象：ALPS処理水（測定・確認用サンプルタンクA群）

予定放出量：約7,800 m³

予定期間：令和7年8月7日（木）～同年8月25日（月）

- ・K4タンクエリアにおいて、A群の各タンクを確認した。タンクの連結弁及びALPS処理水移送ポンプへの払出元弁は「開」の状態であり、許可なく操作できないように施錠されていた。また、弁・配管からALPS処理水の漏えい等の異常は確認されなかった。（写真1）
- ・K4タンクエリアから多核種移送設備建屋への移送配管を確認し、ALPS処理水の漏えい等の異常は確認されなかった。（写真2）
- ・5・6号機東側の希釈・放出設備には、ALPS処理水を希釈するための海水を汲み上げる移送ポンプが3台あり、当日はポンプB及びCの2台が稼働していた。（写真3）
- ・確認した範囲では、設備からのALPS処理水の漏えい等の異常は確認されなかった。（写真4）

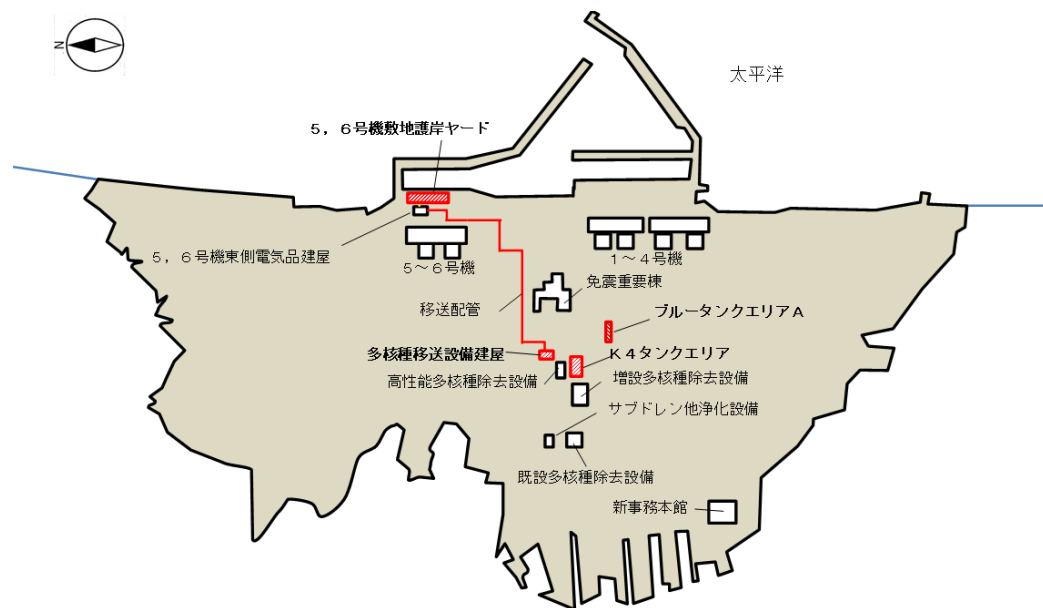
（2）横置き型ブルータンクの保管状況

横置きタンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後に建屋滞留水を処理した水の貯蔵に使用していたが、貯蔵容量が小さいため、容量の大きいタンクへ水を移し替えた後、水抜きを実施し、計367基を敷地内4か所に仮置きしている。

今回は、大型機器点検建屋北側にあるブルータンクエリアAの現況を確認した。（前回確認：ブルータンクエリアA 令和6年5月30日）

なお、ブルータンクは令和6年11月から解体試験に着手したが、令和7年2月に解体試験中の火災により作業を停止している。この影響で、解体完了時期は当初計画である令和8年度中から遅れる見込みであり、それまで現状の保管が継続される予定である。

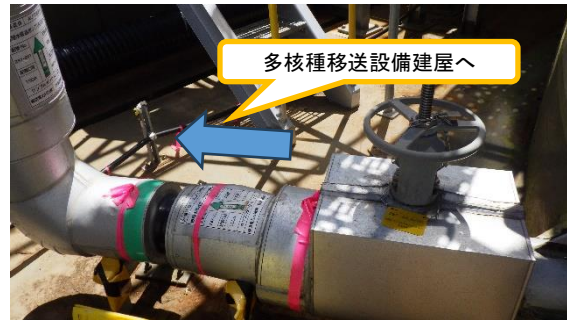
- ・ブルータンクエリアは単管パイプにより立入制限が施されていた。（写真5）
- ・ブルータンクは2段積みで保管されており、ボルトやラッシングベルト（固縛帯）で固定されていた。確認した範囲では、いずれも緩み等は認められなかった。（写真6）
- ・ブルータンク下部の線量を簡易線量計で測定した結果、最大8 μ Sv/h程度であり、タンクによってはスラッジが残留していることが示唆された。（写真7）
- ・一部のブルータンクにおいて、表面の腐食が認められたが、内容物の漏えい等の異常は確認されなかった。（写真8）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1 ①) 連結弁の状況



(写真 1 ②) 払出元弁の状況



(写真 2) A L P S 処理水の移送状況



(写真 3) 海水移送ポンプの状況



(写真 4 ①) 海水の合流地点
※写真奥側で A L P S 処理水と合流。



(写真 4 ②) 放水立坑の状況



(写真 5) ブルータンクエリア A



(写真 6) ブルータンクの固定状況



(写真7) 放射線量率の測定状況
※指示値8. 22 $\mu\text{Sv/h}$



(写真8) ブルータンク頂上部の錆
の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。